

令和7年度 調布市立八雲台小学校 学校評価報告書（学校長 石川 淳）

学校の教育目標

◎思いやりのある子ども(心の教育の充実) ○よく考える子ども(確かな学力の定着を図る授業の充実) ○健康な子ども(体力・健康増進)

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

「一人一人の子どもが安心して通うことができる学校」

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①基本的な生活習慣を家庭・地域と連携して定着させる。	①教科担任制或いは交換授業を行い、分かりやすい学びを提供する。	①運動量を確保した体育科授業の実践を積み重ねる。
	②道徳の授業では主体的に考え、議論する実践を毎時間取入れる。	②ICT 機器や学習者用タブレットを活用し、学びを深め満足度を高める。	②体を動かす意欲向上のために児童の外遊びを推奨する。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①基本的な生活習慣が身に付くよう指導をしているという回答が97%だった。	①学び合いの活動や、観察・体験の授業を単元中1/3の授業で行えた。	①授業時間中の2/3は体を動かし、運動量を確保した。
	②道徳の時間等、心の教育の充実に取り組んでいると肯定的な回答が90%だった。	②全教員が1日に2度以上、ICT 機器を活用した授業展開を行えた。	②1日1回は体育の授業または外遊びができるよう全校で声掛けを行った。
協議会評価	●いつ学校に来ても気持ちの良い挨拶が返ってくる。基本的な生活習慣が身に付いていると感じる。 ●道徳地区公開講座では、多くの学級で考え議論する授業が展開されていた。授業が充実している。	●教室掲示や廊下掲示が学年でそろっているため、教科担任制の実施を通して、学年で統一された指導が行われている。 ●ICT 機器が当たり前のように活用されていて、学習に欠かせないツールとして定着している。	●学年の朝遊びを取り入れるなど、体を動かす時間を確保するために工夫している。 ●休み時間には校庭から元気な声が聞こえてくるので、運動好きな児童がたくさんいることがわかる。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 保護者・地域との連携	5 特色ある教育活動	6
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①授業参観や行事を通して、教育活動を積極的に公開する。	①交流活動、副籍交流を、双方とも負担が掛かり過ぎないように行う。	①
	②学校運営協議会の活動を軌道に乗せ、学校運営への参画意識を高めてもらう。	②学習指導の工夫について全教員で取り組み、授業力を向上させる。	②
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①授業などの公開を積極的に行っているという肯定的な回答が98%だった。	①各学年とも年に1回以上、直接または間接交流を行った。	①
	②PTA や地域組織と連携して健全育成に努めているとの回答は100%だった。	②年3回研究授業を行い、児童も教員も学びと教授の満足感を味わえた。	②
協議会評価	●アンケート結果から積極的に公開していることがわかる。授業参観や行事には多くの保護者が来校していて、参観のマナーが素晴らしかった。	●わかあゆ学級との交流は今後も積極的に行ってほしい。通常学級・わかあゆ学級にとっても有意義な活動になると思う。	

人材育成・組織運営

自己評価	○教科担任制(交換授業)を全学年で実践した。学年主任を中心として学年運営について統一感を持って進めた。 ○学年会の充実やOJT、校内研究会、各種研修会を通して、教員一人一人の学習指導力・生活指導力・組織貢献力の向上が図れた。 ○いじめ対策委、特支校内委の活動は常設・臨時合わせて月に約2回ずつ実施。事案の早期発見と、初動体制の整備を迅速に行った。
協議会評価	●先生方が皆元気で明るく授業をしている。学年で支えあっていることがよくわかる。 ●いじめの重大事態になるようなこともなく、教職員一丸となって子供たちの指導に当たっている様子が見られる。 ●次年度以降も子供たちのために学校運営協議会委員として、学校と手を取り合って活動していきたい。

中期的な経営目標の達成状況

1	教職員・保護者・地域の協働のもと、豊かな情操と温かい人間関係を醸成する教育活動を行い自他を尊重する態度の育成を図っている。また、小・中連携や幼・保・小連携交流等に取り組み、非認知能力の育成と安定した学びの接続・連続を目指している。
2	児童の基礎的な知識・技能の定着及び学び意欲の向上、教員には授業展開を工夫する術を身に付けさせ、授業力の向上を図っている。
3	体力向上・健康教育の充実に向け、運動量を確保した体育の授業と、外遊びの奨励等を通して心身の健やかな成長を育てている。
4	C・Sの導入に際して、地域の教育力、地域の人材や資源を生かした教育活動を積極的に展開し、開かれた学校運営に取り組んでいる。
5	交流・共同学習を推進している。また、校内研究は授業力向上を狙い、教材観、導入、活動、振り返りの授業の流れを見直させている。
人・組織	教科担任制を軸として学年を単位とした学習活動を行う場面を意図的に設定している。児童理解をしていく上での特別支援教育に対する理解を深め、児童の特性に合わせて指導できる教員を育成に努めている。

次年度の重点課題

児童	児童1時間の授業から行事、学期、年度など、小スパンから大スパンのゴールをイメージして、ゴールに向かう行動を自ら選択できるようにさせていく。
教員	教員1教科担任制の推進に合わせて学年内・職層間の報・連・相を一層充実させ、指導の在り方と時間の使い方を継続的に見直しさせていく。CS・協働本部一多くの教職員と接し、各々が担っている分掌の状況を聞いてもらい、協議会委員が加担できる部分を見出してもらう。